



指揮官くん

慣れないパーティで
疲れたでしょう？

ここの上の部屋を
取ってあるから
母港へ戻る前に
一休みしていきましょ

あぁ、そうだね
ありがとう

セントルイス？!

よく考えたら
セントルイスと
ホテルの部屋で
二人きり...

いやいや...折角の
彼女の計らいに...
何を考えてるんだ

ああでも意識
しだしたら...

エレベーターの中に
良い匂い充満して...

指揮官くん♡
捕♡ま♡え♡た♡



指揮官くんも私とこういう事でしたっか？

うふふ強がってもダメよ♡

こんなに固くしてたら何を言ったらって♡

全身がセントルイスの柔肌に包まれて



頭の中は果てしない程の快感に塗りつぶされて



この状況に逆らう事が出来ない...

指揮官くんとのセックス♡
思ってた以上にすこくいいわ♡
指揮官くんはわたしのおまんこどうかしら♡

なんて聞くまでもないわよね？

こんなに膈内でびゅっびゅっちやってるんだもの♡

いいわよ♡私の中がいっぱいになるまで一晩中絞りだしてあげる♡

夜明け前に眠気と疲労感から意識を手放した。僕が見たのは、

その体軀に相応のおまんこから精液が溢れるのを満足そうに見ているセントルイスの微笑みだった



それから何時間もセントルイスと僕は繋がったままで言葉通り一晩中精液を絞り尽くされて





指揮官くん
すこかったわ
私が指揮官くんを
オトすつもりが
すっかり虜にされ
ちゃった...♡

はあ...はあ...
セントルイス...♡

セントルイス...
僕のだけの...
なって...♡

うふふ♡
そうね...

さいしょから私は
指揮官くんだけのものよ♡

ずっと憧れていた
セントルイスに
迫られて

理性は二瞬で
吹っ飛んで

勢いのまま
体格で勝る
彼女を押し倒し
獣の様に欲望を
ぶつけた





